

令和5年度第1回仙北市総合教育会議 会議録

開催日時 令和5年6月2日（金） 午後2時00分

開催場所 仙北市役所田沢湖庁舎 3階 第1会議室

出席者

（構成員）

仙北市長	田 口 知 明
仙北市教育委員会教育長	須 田 喬
仙北市教育委員会教育長職務代理者	坂 本 佐 穂
仙北市教育委員会委員	橋 本 勲
仙北市教育委員会委員	細 川 伸 也
仙北市教育委員会委員	田 口 桂一郎

（市長部局）

仙北市副市長	赤 上 陽 一
総務部長	大 澤 裕 司
総務課長	猪 本 博 範
総務課主事	佐々木 明日香

（教育委員会）

教育部長	草 薨 郁太郎
教育次長兼学校教育課長	福 田 裕 司
教育総務課長	湯 澤 満
学校適正配置準備室長	若 松 正 輝
学校適正配置準備室参事	毛 利 俊 介
北浦教育文化研究所長	門 脇 貴一郎
生涯学習課長	武 藤 寛 幸
生涯学習課社会教育主事	三 浦 洋 平

案 件

- （1） 学校適正配置の推進状況について
- （2） コミュニティ・スクール導入について

大澤総務部長 それでは、定刻前ですけれども、ただいまから令和5年度第1回仙北市総合教育会議を開会いたします。会議の主催者であります田口市長から挨拶をお願いいたします。

田口市長 はい、改めまして、皆様こんにちは。本日、令和5年度の第1回目の仙北市総合教育会議ということで、お忙しい中、教育委員の皆様にはお集まりいただきまして、ありがとうございます。4月から仙北市役所の体制も変わりました、新しいメンバーで、今回初めての総合教育会議ということですので、引き続きどうかよろしくお願ひしたいと思います。

 コロナも収束してまいりまして、私もあえてマスクを取って参加させていただいておりますが、昨日は秋田駒ヶ岳の山開きもありましたし、ようやくですね、観光地としての仙北市が少しずつ息を吹き返しつつあるのかなというように思います。

 その反面、昨年度1年間に仙北市で生まれた子どもの数が70名ということで、私としても大きなショックでもありましたし、今後の仙北市を担う子どもたちの数が急激に減っているということに対して、危機感を抱いております。そういった意味で、その教育環境等の今後あるべき姿といったものを、教育委員会が中心となってこれから描いていくわけですけれども、大きな課題はたくさんありますが、何とかこの地域で生まれた子どもたちにとって、良い教育環境を構築していきたいというように思っておりますので、どうか皆様に忌憚ないご意見をまたお聞かせいただければと思います。

 長時間になりますが今日はよろしくお願ひいたします。

大澤総務部長 田口市長ありがとうございます。次に、須田教育長からご挨拶をお願いいたします。

須田教育長 本日ここに、田口市長、赤上副市長、大澤総務部長、教育委員の皆様参加のもと、令和5年度の最初の仙北市総合教育会議

を開催できましたことに感謝申し上げます。この後、教育委員会事務局から今日の議題に対しての2点について、提案をさせていただきます。

1点目が、学校適正配置に係ることについてです。定例の教育委員会でも報告しましたが、これまでの活動の報告と今後の活動について確認させていただきます。また、学級、学校の適正規模に関わるアンケートの結果についても報告いたします。このアンケート結果から市民が望む学校規模のイメージが見えてきました。今後は、統合も含め、あらゆるシミュレーションをし、調査研究をしていきます。小中一貫校や義務教育学校、中高一貫校、統合中学校など様々なバージョンを丁寧に調査していくつもりです。また、白岩小学校と角館小学校の統合についても、本日そのスケジュールや組織について説明させていただきます。

2点目が、コミュニティ・スクールについてです。県内では、未設置が仙北市と美郷町、東成瀬村だけですが、2年前から西明寺地区をモデル地域として成果と課題を洗い出し、慎重に進めてまいりました。何度も熟議の会を開催し、学校においても丁寧な運営を行ってきましたが、成果の方が課題よりはるかに多いことが判明しました、この設置については、行政主導で強引に行っても長続きせず、形骸化しているという実践例がたくさん報告されています。仙北市では、その反省を生かし、じっくりと地域の実情に応じて取り組んでできました。多くの成果をあげることができましたので、令和5年度の7月をめどに、西明寺小、西明寺中学校をコミュニティ・スクールにします。また、来年度は神代地区、角館地区をモデル地区とし、令和7年度から市内小中学校全てをコミュニティ・スクールにします。本日はその概略を三浦社会教育主事が説明いたしますので、お聞きください。

なお、本日の議題にないのですが、ヤマメ・サクラマスプロジェクトの進捗状況を報告します。今年度、市からは二人の人

員をいただきました。菅原専門官と梁田推進員ですが、非常に優秀なお二人で、精力的に業務を遂行しております。5月には、2週間で市内企業48社をまわりました。そこで、ヤマメ・サクラマスプロジェクトの概要を説明したり、児童・生徒の受け入れを依頼したりしています。多くの企業から大変好意的な回答を得ることができました。求人を出しても応募がなく、それだけ人材不足という課題が市内企業にはあるようです。事業の一環として行う小学校の職場見学体験は、7月26日、27日に実施します。初年度ですので、まずは小学校6年生を対象に実施する予定です。依頼する企業、事務所は、あきた芸術村、安藤醸造、セレクトラ、花葉館、山のはちみつ屋、建設業界の相馬組を予定しています。まとめのポスターにおいては、副市長から依頼された社会貢献に関わる記事なども入れたいと考えています。企業のPRにもなりますので、ウイン・ウインの関係を構築したいと考えます。また、市内中学校2年生を対象にした企業説明会は11月21日に実施します。この交渉も始めました。

以上、本日はよろしく願いいたします。

大澤総務部長 須田教育長ありがとうございました。それでは、次第4の構成員の紹介に入るわけですけれども、令和5年度になって初めての会議でもありますので、配付されている出席者名簿の市長部局と教育委員会について、名簿順に自己紹介をさせていただければと思います。では、副市長からお願いいたします。

赤上副市長 副市長の赤上でございます。私も昨年の7月から就任いたしまして、もうすぐ1年が経とうとしております。だいぶ市の状況も分かってきたつもりですので、今後とも上昇志向になるように努めてまいりますので、どうかよろしく願いします。

大澤総務部長 本日進行しております、総務部長の大澤でございます。去年

は市民福祉部長を拝命しておりました。どうかよろしく願い
いたします。

猪本総務課長 総務課長の猪本です。3年ぶりの総務課となります。どうか
よろしく願いいたします。

佐々木主事 総務課の佐々木と申します。担当して3年目になりますの
で、引き続きよろしく願いします。

草彊教育部長 教育部長の草彊でございます。どうかよろしく願いしま
す。

福田教育次長 教育次長兼学校教育課長の福田裕司です。今年から異動し
兼学校教育課 てきました。どうかよろしく願いします。
長

湯澤教育総務 教育総務課長の湯澤です。よろしく願いします。
課長

若松学校適正 学校適正配置準備室長の若松正輝でございます。どうぞよろ
配置準備室長 しく願いします。

毛利学校適正 同じく学校適正配置準備室参事、毛利俊介です。よろしくお
配置準備室参 願いします。
事

門脇北浦教育 北浦教育文化研究所長、門脇です。どうぞよろしくお願
文化研究所長 います。

武藤生涯学習 生涯学習課長の武藤です。よろしく願いします。
課長

三浦社会教育 生涯学習課社会教育主事、三浦洋平です。よろしくお願
主事 います。

大澤総務部長 はい、自己紹介は以上でございます。

それでは協議案件に入ります。本日の案件は、学校適正配置の進捗状況についてとコミュニティ・スクール導入についての2件でございます。ここからの進行につきましては、田口市長からお願いしたいと思っております。

田口市長 はい。それでは、ここからは私が進行を務めさせていただきます。今回の議事録署名人は、須田教育長と田口委員のお二人にお願いしたいと思います。どうかよろしく申し上げます。議事録が完成次第、署名をお願いすることになります。

それでは、協議案件に入ります。まず初めに、学校適正配置の推進状況について報告をお願いします。

若松学校適正配置準備室長 はい。学校適正配置準備室から、一つ目の協議案件、学校適正配置の進捗状況について、3点報告をさせていただきます。

1点目ですが、市全体の適正配置に向けたこれまでの取り組みについてです。2点目は、今後の取り組みの予定について。3点目は角館小学校と白岩小学校の統合についてでございます。

では、まず1点目の市全体の適正配置に向けたこれまでの取り組みについてです。お手元の資料の1-1をご覧ください。PTA等説明会開催状況になります。この4～5月に、すべての市内の小・中学校PTA及び保育園・こども園保護者会、合計19箇所に出向いて、3月に策定した学校適正配置方針の説明と、その方針の中で示した、一定の集団を確保できる望ましい学校規模に関して、具体的な意見や考えを伺いました。説明時間は、学校や園の都合によって、15分から30分と時間が限られていることや、欠席者が相当数いることから、意見を聴く方法は、欠席者も含めて全保護者を対象にアンケート方式により行ったところでした。その結果については、毛利から報告します。

毛利学校適正
配置準備室参
事

では、資料1-2をご覧ください。4月から5月、PTA保護者総会でのアンケート回収状況です。保育園、こども園の回収数、対象者数、回収率、そして小学校、中学校も同じように回収数、対象数と回収率を載せております。それぞれの数値については、記載のとおりです。

では、実際アンケートがどのような結果だったのか、次の資料1-3について説明いたします。まずは、小学校の1学年あたりの望ましい規模についての結果です。まずは、下二段六つのグラフをご覧ください。アンケートは自由記述でして、保護者の方の記述の仕方は3パターンで、「何人ぐらい」「何人から何人」「何人以上」の三つでした。この三つを積み上げ、棒グラフとして結果をまとめております。

では、下二段、六つの棒グラフですが、回答数に違いはありますが、20人から30人の部分に集中が見られます。田沢湖地区の園の保護者については、40までの広がりがありますが、20から30の範囲にも集中があります。この規模は1学年1クラスの規模です。

そして一番上の段、角館地区の小学校の保護者です。まんべんなくグラフは散らばっていますが、50から60人の部分への集中が見られます。これは1学年2クラスの規模です。また、角館地区の中学校の保護者、25から30人の部分と80人の部分に集中が見られます。この80人の部分については、80人よりも大きい人数を記載したものについても、この80のところにもまとめています。80人規模は1学年、2から3クラスの規模です。

そして角館地区の園の保護者、最も集中しているのは50人の部分ですが、20から60人にかけても広がっていることが分かります。この後の自由記述の部分での説明とも重なりますが、この結果から小学校では少ない人数規模による担任の目が行き届いた教育を望んでいるようです。

また、田沢湖地区、西木地区の保護者は、現在の学校の規模とか、自分自身が子どもの頃の経験から、少人数希望、若しくは単学級を望む声が多いのではないかと考えました。

それでは、次の中学校の1学年あたりの望ましい規模についてです。先ほど小学校の規模でお話ししたのと同じく、下二段六つのグラフの結果については、同じ結果でした。一番上の角館地区については、まず小学校の保護者は50から60名の集中は同じですけれども、80のところへの集中も見られます。そして、中学校の保護者については、先ほどの小学校の規模と同じ結果です。

園の保護者についてです。こちらまんべんなく散らばっていますが、80のところが一番集中しています。これは小学校の規模とは違う結果になっています。中学校では部活動があるため、角館地区の保護者については、小学校よりも大規模の学校を望んでいるのではないかと思いました。西木地区と田沢湖地区は小学校と同様、少ない人数規模による担任の目が行き届いた教育を望んでいるようです。

今、説明したグラフをまとめたのが次の資料1-4です。小学校の規模のものは、先ほど九つにわかれていましたけれども、それを全て合計したのが上のピンクの枠のグラフです。御説明したように、20から30のところへの集中が大きく見られます。また、緑色の部分については、何人以上と回答した人の数値なのですが、5人以上と回答した人も80まで数値が加算されますので、緑を除いてみた場合でも、やはり20から30への集中が大きくあるということがわかります。下の中学校の規模については、20から30、そして80の規模のところへの集中が多く見られました。

では、次の資料1の5です。先ほどは人数規模についてでしたが、今度はその人数に対して、どのようなイメージを持っているのか、どのような考えを持っているのかを記述ごとに分類してまとめたものです。棒グラフの左には項目が示されていま

すが、これは分類した結果出てきた項目であって、我々があらかじめ準備した項目ではありません。

それでは説明いたします。まず、設問①「一定の集団規模についての具体的な考えやイメージ」の①「多様な交流や学力向上を期待」、これは昨年度行ったアンケートと同じく多様な交流や多様性を望んでいるという同じ結果が表れました。そして、③「部活動や行事が盛り上がる」の部分は、小学校よりも中学校の方が人数が多くなっています。おそらく、部活動があることや、クラス対抗行事などがあることが保護者の方々も意識されているのではないのでしょうか。そして、⑥「個々に目が届く」、小学校の方は人数は一定数いますが、中学校になると人数は減少しています。そして、下の②にはいかず、次の中学校の保護者の①の方をご覧ください。①「多様な交流や学力向上を期待」、同じように高い人数の結果です。そして、③「部活動や行事が盛り上がる」も、中学校になると人数が増えています。ですが、中学校の保護者は、小学校でも目が行き届いた教育を望んでいます、中学校でも個々に目が行き届く教育を望んでいるという結果でした。おそらく、今の自分の子どもの姿を思い浮かべ、中学校でも個々に目が行き届く教育を望んでいるのではないかと思います。そして、園の保護者です。園の保護者については、小学校と同じような結果です。

それでは、また6ページまで戻り、設問②「学校適正配置についてのご意見、期待や不安など」についての結果です。①から④までは適正配置推進を望んでいる声ですが、①「統合が必要・仕方ない」、これは全てに一定数いることが分かりました。また、真ん中⑤から⑨は適正配置への不安の項目ですが、最大の不安となっているのが⑦「通学面への不安」です。小・中・園、どのグラフを見ても一番高い割合になっています。そして⑩「複式学級解消を望む」。小学校の保護者も、中学校の保護者も一定数はいますが、園の保護者になると2倍近い人数に増えております。このことから、これからの少子化の影響を直接

受ける園の保護者の方々の子どもの年代であることから、複式解消を望む声がたくさんあったのではないかと考えられます。

アンケートの結果については以上です。

若松学校適正
配置準備室長

それでは、2点目に入りたいと思います。今後の予定についてです。9ページの資料2をご覧ください。市民意見交換会開催計画でございます。7月6日から18日にかけて、各小学校体育館で市民意見交換会を開催する予定です。内容は、先ほどの保護者アンケート結果による望ましい学校規模を踏まえて、地域住民の皆様と改めて望ましい規模と配置の在り方、またその実現に向けた具体的な方策についてをテーマに意見交換を行いたいと考えています。

市民の皆様には、7月1日号広報紙やホームページ、LINE等で周知を図るほか、学校と園の保護者には、直接お便りでもご案内する予定です。できるだけ、意見を活発に述べ合って、みんなで考える機会にするため、グループワークの手法を取り入れるなど工夫したいと思います。その後、7月下旬に学校適正配置検討委員会を開催して、これらの結果を踏まえて具体的な方策の方向性について検討に入りたいと考えています。

最後3点目ですが、角館小学校と白岩小学校の統合についてです。10ページの資料3-1をご覧ください。統合準備委員会設置要綱案でございます。7月上旬から、両校関係者による「統合準備委員会」を設置して、統合に向けた協議を開始することにしていきます。5月30日には、その設置のための事前打合会を、両校の校長、教頭、教務の先生及びPTA正副会長で行いました。打合せでは、要綱案に基づいて委員会組織の確認を行いました。主な内容についてですが、第2条で協議事項の規定、第3条で委員の選任区分、第8条で専門部会を設置できる規定を設けました。

資料3-2、委員構成表をご覧ください。これは、具体的な委員構成の想定です。候補者の人選については両校の意見も踏ま

えて決定したいと考えています。

資料3-3、スケジュールをご覧ください。これは、統合に当たって必要な協議事項を分担しながら、順調に進んでいく場合の想定例として示すものです。この想定どおり今年度内に協議が整えば、令和7年4月統合の可能性があると考えていますが、そこはやはり全体的な協議の進捗状況を踏まえて、統合時期を考える必要があると思っています。なお、閉校記念行事については、右から2列目に示したように、準備委員会とは趣旨が異なりますので、別組織として地元主体で実行委員会を組織していただき、事業の計画から実施まで行っていただく形を想定しています。第1回目の会議は、7月3日夜に開催する方向で調整することとなりました。

白岩小学校は、150年の歴史を持つ学校で、地域に元気を発信してきたシンボル施設です。統合を決断した地域の思いをしっかりと受け止め、住民の不安解消とともに期待に応えられる統合を目指して、準備を進めてまいります。

田口市長

はい、ありがとうございます。ただいま、学校適正配置に関するアンケート調査の結果報告、それから、学校適正配置の意見交換会の計画、そして角館小学校と白岩小学校の学校統合準備委員会の設置と今後のタイムスケジュールについて説明、報告がありました。今日は案件が少ないですので、一つ一つ教育委員の皆様にご意見、若しくは質問、ご助言でも結構ですので、いただければと思います。

まず初めに、最初に説明しましたアンケートの調査結果について意見をいただきたいと思います。坂本委員の方からよろしいでしょうか。

坂本教育長職務代理者

はい。アンケートでは非常に具体的な意見、率直な意見だったのではないかなと思っています。これを見ますと、統合に積極的に賛成ということまでは言えないけれども、あな

がち反対ではないと、いずれ統合せざるを得ないのではないかと。例えば、その地域の住民たちの感情よりも、子どもたちの将来を考えなければいけないのではないかというような大人の考えが非常に見えてきたように思います。そこから一歩だと思しますので、それを大切に深めていきたいと思します。

田口市長 ありがとうございます。それでは、細川委員お願いします。

細川委員 はい。細かくグラフにさせていただいてありがとうございます。やはり統合っていうことに関しては、保護者や地域の皆様に具体的に、ありきではなくやっていかないといけないんだろうなという、少し前向きな考えになってきたのかなというように思いました。以上です。

田口市長 はい。ありがとうございます。では、田口委員お願いします。

田口委員 個々のアンケート結果というよりも全体のこのアンケート結果の全てを見て受けた印象ですけれども、当初目的としていた仙北市の学校教育の現状、あるいは今後の課題について、課題の共有というか、問題点の共有というのは市民と共有することが一つの大きな目標だったわけですけれども、これまで各学校、地域、市民、意見交換会などを地道に積み上げてきたり、広報活動をしてきたり、参加人数が少なかったり、課題もあったわけですけれども、しかし、地道にこうして時間をかけて説明してきたことが、次第に保護者に浸透してきているかなと、じわじわと課題が共有できているのかなという印象を持ちました。というのは、真っ向から受け止めて、今後の市の学校教育環境をしっかりと考えていかなきゃいけない、あるいはやっぱり統合もやむを得ないかな、あるいはや

っぱり行くんだったら、やっぱり交通、通学面が不安だなというようなことも自由記述の中で出てきたということは、やっぱりそれぞれ保護者が問題意識を持ってきているという印象を受けました。

これまでの準備室の取り組みといいますか、地道な積み重ねがこうした結果によって、保護者や地域の方々と共有できてきたのかなということで、成果という言い方が正しいかどうか分かりませんが、当初、予定していたことは徐々に達成できてるのかなというように思いました。

ただ反面ですね、やはりこうしたアンケート結果をどう生かして煮詰めていくのか、なかなか難しい側面もあるのかなということ的印象として持ちました。以上です。

田口市長

はい、ありがとうございます。では、橋本委員お願いします。

橋本委員

アンケートの回収状況ですけれども、もう少し多いかなと思っていましたのですけれども、ちょっと少なかったかなというように思いました。それで、1学年あたりの人数が、最低でも20人以上というような考えが出てきているのではないかなと思います。その背景にあるのは多様な交流とか、学力の向上を期待しているということのようで、これは去年アンケートを行ったときと同じ傾向であるのかなと思います。

それから、統合については、必要・仕方ない・急ぐべきというようなアンケート結果を踏まえると、かなりの保護者の方がそういう状況を望んでいるわけではないかもしれませんが、これはもうやむを得ないというように考えているのではないかなと思います。そうなった場合、一番の不安ということで感じているのが、通学面への不安ですけれども、適正配置方針では、通学の時間の目安についてはおおむね1時間を目安とするということにしています。それで準備室の

方で、秋田県内の状況を詳しく調査していただいたところ、県内でも1時間以内というような形で進めているようですので、これはその線に沿って検討していただければというふうに思います。

ただ、小学校がそういう状況になった場合、通学時間1時間の目安はそうなんですけれども、やはりできるだけ通学時間を短くするような手法といいますか、考え方といいますか、そういうのはもう十分検討していかなければならないのではないかなというように思いました。以上です。

田口市長

はい、ありがとうございます。今、橋本委員の方から指摘があったこの回答率の各小学校、中学校でだいぶ違うようですが、どういう理由なのでしょう。生保内小学校は12%しかありませんが。

毛利学校適正
配置準備室参
事

やはり学校の規模が小さいほうが、回収率が高い傾向にあります。人数が多いところは、そもそもPTAの総会に出席してなくて、そこで我々が直接声をかけられる人数が少なかったりする。また、今回は自由記述ということで、選択式のアンケートだと保護者の方々も短い時間で答えられたのではないかと思います。書くという作業が一つ入ったことで、回収率が伸びなかったのではないかと思います。

田口市長

分かりました。いずれにしても委員の皆様からもお話あったとおりですね、保護者の皆さんは現状をしっかりと受けとめて、もう統合やむなしと、しょうがないだろうというようなところもありますし、非常にアンケートを実施した側からすると、本当に保護者の皆様のそういう現実を受け止めてくれることに関しては大変ありがたいことではありますけれども、ただやはり、不安もたくさんあるようですし、そういったところを一つ一つ今後しっかりと。特にですね、さっきも橋本委員から

もありましたけど、その通学面における不安というものが、統合はやむを得ないけれども、通学どうすんだらうというところに関しては、やはり市としてもしっかり示していかなければいけないのかなというふうに思います。

何か市当局側でこの件についてご意見とか、補足とかあればありますでしょうか。いずれにしても、今回のアンケート調査によって、小・中学校、保育園の保護者の皆様の考えがある程度把握できましたので、これを基に今後の意見交換等でこれを示しながら検討していくということになると思います。

それでは続きまして、学校適正配置の意見交換会についての説明がありました。これについて何かご意見とか気になった点、また質問があればお願いしたいと思います。引き続き、坂本委員の方からお願いしたいと思います。

坂本教育長職務代理者

先ほどのアンケートの回収っていうところからも、規模の小さい学校はという話もありましたけれども、これは統合に関する興味というか、関心の高さもあるのではないかなと思っていて、桧木内小学校、白岩小学校の数値の高さが数字に表れているような気がいたします。小規模校イコール統合を現実のものとして捉えているという意見があると思います。

7月の意見交換会ですが、やはりそういった小規模校には、より丁寧に寄り添っていかなければならないと思います。昨年実施した説明会でも、大きな学校ではそれほど参加率が高くなかったということもありましたので、多くの方にご参加いただけるような形をとって進めていただきたいと思います。

田口市長

はい、今の件についてはいかがですかね。小規模校の方が自分事として参加者が多いという話ですけど。

若松学校適正配置準備室長

そうですね、昨年度1年間同様に実施しまして、いろんな場で周知不足もあったのではないかと話をいただきました

たけれども、その点で今回は個別におたよりでも資料とともに開催案内をしていきたいなと思っております。資料を見て、まずは関心を持っていただく。資料については、今回のアンケート結果を載せまして、少しでも関心を持っていただいて、来ていただきたいなど。それ以外にLINE等のいろんな手段を講じて周知は図って行きたいと思えます。

ただ、どうしてもその関心の高さというものはですね、やはりこちらでどうにもできない部分があって、あらゆる周知手段は尽くして、周知していきたいと思えます。

田口市長 はい、分かりました。では、細川委員お願いします。

細川委員 計画内容はこれで十分だと思います。周知の方法は大丈夫だと思うのですが、やはり私が思うには、保育園の保護者の人たちがより多く出席していただければなというのが、一つ願うところです。中学校の保護者に関しては、やっぱり3年生になれば、翌年からは卒業していなくなっちゃうこともありますので、これから小学校に入る子どもたちの保護者の参加率が高くなることを願っています。

田口市長 はい、ありがとうございます。それでは田口委員お願いします。

田口委員 できるだけ重ならないようにということで、やはり人集めが一つポイントかなと思いますので、今お二方がおっしゃったとおりだと思います。

もう一つは、やっぱりテーマを掲げておりますけれども、意見交換会のテーマ「望ましい学校規模の規模及び配置と、その実現に向けた方策について」とありますけれども、これでもまだ大きいのかなと。もっと細かい点でこういうことを来ていただいた場合には協議してもらいますという具体的な

視点といいますか、協議の視点みたいなものをいくつか挙げておくとか、これについてはもうちょっと煮詰めていただきたいとか、もう一つ工夫の一つかなど。

あとは、グループでの協議というのは非常にいいのかなど。前回、私もいくつかの地区に参加させていただきましたけれども、やはり少人数でやっても全体の場では発言しにくいという場面が見られたので、短時間で一人一人参加していただいた方の思いを詳細に聞くと、あるいは意見交換をするという意味ではグループ協議がいいのかなというようなこともありまして、非常にこの手法は良いと思います。

テーマですね、もうちょっとこういうインパクトのあるような、細かなテーマをいくつか提示して、こういうことを例として協議したいというようなことがあれば、これについてはちょっと考えるなという方が来てくれるのかなと考えました。以上です。

田口市長

はい。このグループワーク等の進め方については、グループワークの司会というか、主導する人というはどのような形で進められるのでしょうか。

毛利学校適正
配置準備室参
事

グループワークについては、それぞれのグループにこちら側の事務局が入ることも考えられますし、当然大人が集まったのグループワークなので、自然と司会が発生して、記録を取る人が発生して、付箋に書きながら、それをみんなで共有していくというような、前回行った熟議のような形が自然発生することは可能だと思いますので、そこは参加人数を見ながら決めていこうと思います。

田口市長

なるほど、分かりました。それでは橋本委員お願いします。

橋本委員

この開催計画で進めていただきたいと思います。今お話が

あったように、グループワークの手法も取り入れるということですので、会場に来た皆さんは意見を出しやすいのではないかなというように思います。

先ほど田口委員からお話があったように、参加した人方が、すぐその会議に入っていけるような、具体的なテーマとかがあれば、それを出しながらみんなで話し合いの場が広がっていくのではないかなと思います。以上です。

田口市長 はい、ありがとうございます。今の橋本委員のご指摘に対してはいかがでしょうか。

若松学校適正配置準備室長 はい。先ほど田口委員のご指摘と開催のテーマについてです。その実現に向けた方策ということで謳いましたけど、もう少しイメージしてもらえる、踏み込んだ設定を考えたいと思いました。

田口市長 今、私がこうやって司会をしていますけど、ここはグループワークのいわゆるリーダーみたいな立場で話しているじゃないですか。これでいくと、方策はいかがですかって言った後に、その先がなかなか難しいと思うので、お二人からご指摘のとおり、ちょっと具体的に話ができるようにしないと、いや方策って言っても、と止まってしまうような気がするので、ぜひテーマについてもう少し分かりやすくして討論しやすい、お互いが意見を出しやすいようなテーマにしていただければと思います。

そうすれば、市側から何か意見交換に関してのご意見はありますか。

須田教育長 昨年の会議に出たときに言われたのが、やっぱり周知の仕方がまだ足りないって話でしたので、角館小学校の会長からは、角館から学校がなくなるっていうぐらい過激な発言

をして角館の方々に周知しないことには、なかなか関心持ってもらえないんじゃないかという発言もありましたが、まずポスター等を作って、タカヤナギとか公民館とか病院とかにも貼って、参加できるようなことも工夫していく必要があるかなと思いました。

田口市長

はい、ありがとうございます。特に先ほど細川委員からもご指摘がありましたけれども、やはり中学校3年生の親御さんというのは、実際、直接関わらない形になると思うので、やはり小さい子どもの保護者の皆さんがこれから思い切り影響を受ける当事者になるということだと思いますので、そういった方々の参加率をぜひ上げていただきたいなど。できれば、実施した際の参加者数とか、また、どういうお子さんが、小学何年生だとか、そこまで具体的にしなくてもいいので、小学校の保護者とか、中学校の保護者だとかいうことを教えていただければ参考になると思います。検討いただきたいと思います。そのほか意見交換会の開催計画につきましては、委員の皆様から何かよろしいでしょうか。

はい、それでは続いて、角館小学校、白岩小学校の統合に関する準備委員会の設置ということですが、この角館小学校、白岩小学校の統合というのは、今後の学校適正配置の一つの事例となる大変重要な統合になります。ぜひ、教育委員の皆様からも忌憚ないご意見をいただければと思います。そうすれば、今度は橋本委員の方からご意見をお願いしたいと思います。質問でも結構です。

橋本委員

白岩小学校の地域の皆さんから統合を進めていただきたいということで進めるものですので、地域の皆さんから積極的に協力していただければと思いますので、このスケジュールに沿って丁寧に進めていただきたいと思います。以上です。

田口市長 はい、ありがとうございます。では田口委員お願いします。

田口委員 はい。最近、角館小学校と中川小学校が統合しました。しかも、短い準備期間での導入だったように思いますけれども、そのときの課題、当時そのときP T A会長だった教育総務課長もいらっしゃいますし、経緯を全てわかっている方々が委員会の中にもいらっしゃいますので、当時動いてみて何か課題があったとしたら、その課題を踏まえて、今回も白岩小学校との準備委員会で生かしていただければと思いますし、やはり白岩小の保護者が統合する側の小学校に行くに当たって、どういった形の統合になるかはこれからの議論だとして、いずれ白岩小の子どもたちと保護者が一番不安だと思いますので、その不安の声を一つ一つ潰していくっていうか、聞いていただいて、対応していただく、丁寧な対応が求められると思いますので、その点だけお願いして進めていただければよろしいかなというふうに思います。以上です。

田口市長 中川小学校との統合の際の、何か課題とかっていうのを誰か把握している方はいますか。何かデータとかであるのですかね。

若松学校適正配置準備室長 そうですね、会議録等の記録は残っておりますけども、時間がなかったっていう感じを受けております。1年の中で考えながら走ったという状況だったので、もうキツキツのスケジュールだと。その辺は地域ありきではなくて、協議しながら統合意識を共有していきたいと思います。

田口市長 はい、分かりました。では、細川委員お願いします。

細川委員 やっぱり私が心配なのは、白岩小学校の保護者と生徒・児童だと思いますので、少しでも不安が解消されるように、順調に

決めていただければと思っております。以上です。

田口市長 はい、ありがとうございます。坂本委員お願いします。

坂本教育長職務代理者 今回の統合に関する要望が地域から、白岩側から出されたということをまず大切にしなければいけないと思います。理想的ではありますが、やはり思い切った決断、要望だったと思います。統合に関してもそうですけれども、閉校ということに関しても、丁寧に丁寧に進めていただきたいと思います。

田口市長 はい。直接私が要望されたときに、地区の区長3名、それから保育園の保護者・責任者の方と、あと小学校PTAの会長と、地元の市議会議員の方といらっしやって、全員から何とか早く進めていただきたいという要望をいただきました。

今、坂本委員ご指摘のとおりですね、非常に複雑な心境だったと思います。ただ、冒頭に皆さんお話しているとおり、子どもの立場になったときに、もうこれはもう進めるしかないというような決断の中で、地域全体で統合を要望されたということが、非常に私達にとっても大変重い決断だったというふうに感じましたし、そう決断したけれどもやはり皆さんご指摘のとおり、不安もたくさんあると思いますので、そこはしっかりと寄り添って、その不安解消のためにしっかり情報提供しながらいかなければいけないのかなと思います。

この点に関して、教育長はどのようにお考えですか。

須田教育長 はい、皆さんお話されたとおり、丁寧に、丁寧に合意形成していくつもりですので、よろしくお願ひしたいと思います。

田口市長 はい、それでは協議案件の1でありました学校適正配置の推進状況について、3点の報告の中で皆さんからご意見をいただきましたが、協議案件1についてはこれでよろしいでしょう

か。何か補足か、また追加で聞きたいことがあれば、挙手いただきたいと思いますが。

よろしいですかね。はい、続きまして、協議案件の2でありますコミュニティ・スクール導入について説明をお願いします。

三浦社会教育
主事

はい。生涯学習課の三浦です。私の方からは、コミュニティ・スクールについて、現在の進捗状況やこれからの進め方について、お話しをさせていただきたいと思います。こちらの資料をご覧くださいながら、説明させていただきます。

まず、資料1ページ目の下の段をご覧くださいと思います。前回もこのようにお示したところでした。現在、この計画に沿って、西明寺小・中学校がまもなくコミュニティ・スクール導入の見通しとなっております。また、角館地区と神代地区もモデル校として、準備を進めているところであります。

2ページ目をご覧ください。コミュニティ・スクールの制度、体制の整備についてです。コミュニティ・スクールをこれから導入していく際に何が重要かという点、コミュニティ・スクールについての教育委員会規則の策定と、組織の要となる学校運営協議会の委員の委嘱ということになります。委員会規則については、仙北市立学校の学校運営協議会に関する規則ということで、策定の準備が進んでいます。西明寺小・中学校で、7月に第1回目の学校運営協議会が開催される予定となっております。そこでコミュニティ・スクールとして正式に稼働ということになるかと思いますが、それに先立ちまして、この規則を6月15日の教育委員会定例会で承認をいただけるようにして、そして7月1日をもって施行ということで、それを目指して準備を進めているところであります。

この資料の4ページのところから規則の案を載せていますので、そちらをご覧くださいと思います。この規則についてですけれども、目的ですとか、趣旨ですとか、それからどの

ような設置の仕方、どのような組織にするか、そしてどのような役割を担うのかについて定められているところであります。

細かいことについてお話をしたいと思いますけれども、5ページ目をご覧ください。6条に、「職員の任用に関する意見の対象となる事項等」とあります。学校協議会の機能として、教職員の任用について意見を述べるができることあるわけなのですけれども、この辺りは学校の先生方からすると一番気になるところかなと思うところなんです。これについて6条2行目に書いています。意見を述べるができる事項については、「基本的な方針説明に資する事項(特定の個人に関する事項を除く。)とする。」とあります。つまり、このような学校を作りたい、こんな子どもたちを育てたいということについて、そのためにこんな先生がくればいいなという、そういった内容にしていきたいということなんです。実際他市の事例についてですけれども、この職員の任用についてあまり話し合われているかという、そうでもないようです。令和4年度の学校運営協議会の県南地区の事例として、ある市では、子どもたちに商品開発ですとか販売体験を盛んに行っている中学校があり、そういった活動を通して、子どもたちが自分の地域を発信していくということで取り組みを進めている地域があります。この活動を強力に進めていらした校長先生が退職されるということで、学校運営協議会として、この活動の意図もしっかり受け継いで活動を進めてくれるような校長先生を、来年度からもお願いできればなという意見が出されたようでありました。その意見について、委員会に意見を述べたようです。その後どのようなようになったかという情報も入っていませんが、実際の人事を見ていると、そのあたりを理解して進めてくださるような校長先生が配置されているという話を聞いております。

続いて、同じく5ページ目のところで、9条のところをご覧ください。組織について書いてあります。「評議会は10人以

内の委員をもって組織し」とあります。10人以内とありますけども、実際のところはこの中に例えば、同じ中学校区の他の学校の校長先生に委員として入ってもらったり、あとは公民館の館長さんに入ってもらったりということが考えられそうです。ということで、委員の活動に対して報酬も発生するわけですが、実際は10人よりも少ない人数となる可能性が高いですし、その中でも報酬が発生しない委員もいるということも覚えていただければと思います。

その委員の身分について、10条のところに書いてあります。地方公務員法に定められているという点から、特別職の地方公務員の身分を有するという事になっております。次のページをご覧くださいますと、11条のところに委員の守秘義務等とあります。職務上知り得た秘密を漏らしてはならないということで、守秘義務の規定も書かれております。学校運営協議会は、学校の内側の立場ということになります。学校としても、例えばいじめの問題ですとか、不登校の問題ですとか、学校だけでなかなか解決ができない場合には、そういった問題を学校運営協議会の委員の皆様にご腹を割って話すというような形になろうかと思っておりますし、実際に他の市町村でも、このように運用しているようでありました。そういうことで、委員の方には守秘義務についても、仙北市の場合でも丁寧に説明をしていかなければならないかなと思っております。

他にもいろいろ細かいところがあるわけですが、後でご覧いただきたいと思っております。それでは2ページ目にお戻り下さい。ということで、教育委員会規則についてお話ししました。もう一つ、学校運営協議会委員に委嘱ということで書いてあります。

先ほどのお話と重なりますが、10人以内の委員を委嘱しますということになっております。今年度、西明寺小・中学校の場合は、現在運用されている学校評議員の皆さんをベースに委嘱するという事で、準備を進めているところです。また、今年度

コミュニティ・スクールを導入の推進役と、導入した後の取り組みを後押しする役割ということで、CSディレクターという方をお願いしております。元校長先生の相澤克彦先生をお願いしております。早速いろいろなところで私どもは力をお借りして、各学校で説明をする際などに活躍していただいております。

では、2ページの下の段をご覧ください。西明寺小・中学校へのコミュニティ・スクール導入についての進捗状況についてお話をします。昨年度の10月26日に、小・中学校合同で熟議を実施しました。これを受けて、令和5年2月1日には、その意見を反映して熟議の参加者を対象に、その意見をどのように反映させていくかという方針が、それぞれの学校の校長先生方から示されたところであります。そして、令和5年7月の予定で、第1回目の学校運営協議会がそれぞれの学校で開催される予定になっておりますし、ここでコミュニティ・スクールとして実際に動き出すという見通しとなっております。

また、コミュニティ・スクールとの関係がある地域学校協働活動についてですけれども、西明寺小学校では3年目となるくりっこ探検隊という、地域を巡って、地域を知って、自分の生き方などを考えるといった活動が行われるということで、先日も学校と保護者と地域の方を交えて、協働活動の実行委員会で話し合いが行われていました。中学校でも、推進委員さん方と学校との月1回の定例会を行っていただいている、協働活動を、地域と一緒にやって行う活動について、協力的に進めていただいているところであります。というわけで、地域、学校ともにコミュニティ・スクール導入する準備が整ってきたなと感じているところであります。

では、3ページ目をご覧ください。コミュニティ・スクール導入のモデル校についてのお話をします。角館地区、神代地区の小・中学校を今年度はモデル校として取り組みを進めていただいておりますけれども、その中で、来年度から導入するとい

うことで、学校評議員の皆さんへの説明ですとか、PTA、保護者への周知、先生方の研修ですとか、それから熟議について、学校の実態やスケジュールに合わせて計画や実施を進めていただいているところでもあります。

また、このコミュニティ・スクールの仕組みについて、市民や地域住民の皆さんにも知っていただく必要があるわけですが、広報などを活用して周知していく方法を検討しているところがございます。地域学校協働活動については、広報の生涯学習のページで毎月のように紹介させていただいております。また、このモデル校についても、地域学校協働活動について、コロナ禍がだいぶ落ち着いてきたということで、活動が活発に展開されているところでもあります。

では、3ページ目の下の段をご覧ください。熟議についてです。市内のコミュニティ・スクール実施校やモデル校に関わらず、市内の小・中学校で熟議の実施、やってみようということで計画を進めていただいております。一番近い予定でいけば、7月31日に神代の小・中学校の熟議を開催する予定になっております。また、西明寺中学校は、熟議に子どもたちも入って、中学生と地域の方による熟議を計画していただいております。また、熟議を行う際の進行役ということで、ファシリテーターという役割が必要になってきますが、6月21日には、県の生涯学習課の主催で協働活動推進員と各学校の地域連携担当の先生方を対象とした研修が予定されていて、その主な内容として、熟議ファシリテーターの養成ということになっています。こちら、市内各学校からの参加をお願いしており、早速申込みをいただいているところです。現在は、私がファシリテーターとして熟議をお手伝いしているところではありますが、この後コミュニティ・スクールの導入が進めば、ファシリテーターがますます必要になってくるのかなと思っています。普段子どもたちと一緒に学級会などの話し合いを進めていただいている先生方であれば、そんなに難しくなくできるのでは

ないかと考えているところでもあります。

では、最後に資料の一番後ろに三つ折りの大きな資料をつけておきますので、ご確認いただければと思います。前回、2月に開催された総合教育会議のときに、皆さんに1人1枚の付箋にキーワードを入れていたものを、まとめたものであります。私の方で整理をさせていただいたところですが、似ているものをまとめてみたり、それからリンクするものを線でつないだり整理をしてみました。そうすると、いろいろなことが見えてくるのではないかと感じているところでもあります。まとまっている意見が多いものについては、やはり考えていく必要があるとなるでしょうし、少ないものについても、貴重な意見ということで、非常に大事な意見です。この熟議は、何か決めるということではなくて、とにかく意見を集めるものです。その集めた意見を基に、学校運営協議会でどんなことができるかを考えていくことになります。

参加した地域の皆さんや学校の先生方にとっても、お互いの意見を聴ける良い機会となります。地域の皆様にとっては、学校でこういうこと考えているのだなと知ることができるものになりますし、学校の先生方にとっても、地域の方々に学校の考えを知ってもらうということで、とても良い機会となります。その参加した皆さんにとっては、意見を出し合ったり聞いたりすることで、自分の立場で何ができるのかを考える良い機会になるのではないかと思います。

併せて、4月26日に行われた市の教職員の集いで、先生方からも熟議を行っていただきましたので、それもまとめたのでご覧ください。私からは以上になります。

田口市長

はい。すいません、委員の皆様からのご意見・ご質問をいただく前に、ちょっと私から。そもそも、このコミュニティ・スクール導入の目的っていうのは何になるのでしょうか。

三浦社会教育
主事

はい。目的はいろいろあるわけですがけれども、例えば、学校・家庭・地域、それぞれ単体で解決することが難しい問題がたくさんあります。例えば、いじめや不登校の問題もそうですし、例えば、学校現場にいと、保護者の方から子どものしつけを学校でやってくれないか という要望があったり、あとは地域の方から、地域での子どもたちの挨拶を元気にできないものかなという相談を受けたりしております。でも、しつけは家庭でと思うところもあったり、地域での挨拶だとすれば地域の問題だろうとかというのがあったりしますが、そういったものは、地域単体、家庭単体で解決ができないから学校に相談していることだと思えます。

このように、世の中的に複雑な問題が多くて、学校・家庭・地域それぞれで解決するのが難しい問題が多くなってきているのですが、そういうことを解決していくためには、一緒になって考えていく必要があります。だからこそ、こういった仕組みを通して、意見を共有させて、課題とか目標を共有して、それに向かって一緒に取り組んでいきたいと思います。その中で、よりよい地域や学校を作っていくということも目的の一つであると思えます。

田口市長

なるほど、ありがとうございます。はい、それではコミュニティ・スクール導入について説明をいただきましたが、教育委員の皆様からご意見やご質問をいただきたいと思えます。そうすれば、また橋本委員の方からお願いしたいと思えます。

橋本委員

まず、この後進める計画がありますので、それに沿って進めていただきたいと思えます。それと、この前の総合教育会議、それから教職員の集いの時の皆さんに書いていただいたものをこのようにまとめていただいて、本当にありがとうございます。

西明寺小・中学校をモデルとして進められているということで、その中で熟議を行ったところ、前回の会議ですけれども、地

域を支える人に育ててほしいとか、地域に残ってほしいとか、そういう子どもたちが将来地域に戻って地域を支えるような子どもになってほしいという意見が多かったというふうにありました。各学校ではいろいろな活動されていると思います。その活動を大事にしながら、熟議を行って、そういう方向に進めればいいのかなどというふうに思います。これはヤマメ・サクラマスプロジェクトも大きい関連があると思いますので、そちらの担当の方とも密接に連絡を取り合いながら、進めていったらどうかと思いました。

多分、コミュニティ・スクールを導入するということで、今までと違ったことに取り組まなければならないという考え方になれば、地域の人もちよっと引いて考えるかもしれませんけれども、今ある活動を発展させて、そちらの方に繋げるという説明であれば、取り組みやすいかなというように感じました。以上です。

田口市長

はい、ありがとうございます。では、田口委員お願いします。

田口委員

これまでも何回か繰り返し発言してきましたけれども、このコミュニティ・スクールは時代の流れでしょうから、積極的に推進していただきたいので、どうせやるなら成果を上げていただきたいなという思いがまず先にあります。それを前提として、これまでの学校評議委員会制度、学校協働本部事業、活動的には全く同じです。ですから、それと違って何がメリットで何が違うかを明確にして、そこを各学校さんに、やっぱりCSディレクターもいるということなので、やっぱりしっかりとそこを踏まえた上で、これまでの活動の単なる延長、同じで名前が変わっただけの活動にならないように、もっと地域を巻き込んで一体的に学校と課題を共有しながら、学校を地域全体で運営していくというくらいの覚悟で、地域が参加するということだと思いますので、そこら辺を軌道に乗るまでですね、やっぱ

り見守って支援していかなければいけないのかなということを感じた次第です。

2点目はですね、先ほど橋本委員からも出ましたけれども、地域を巻き込んで学校作りをしていくわけですから、ヤマメ・サクラマスプロジェクトとは一体的な取り組みになろうかと思えます。先ほどの運営協議に関する規則の中で、第9条に組織というのがありましたけれども、この中にも具体的には示されていませんけれども（6）でも、あるいは（1）にも該当するかと思えますけれども、企業関係者、あるいは商店主とか、そういった人材の方も協議会の委員として参加していただくことによって、より円滑なヤマメ・サクラマスプロジェクトの事業という展開に協調して連携していけるのかなというふうに思いますので、明文化する必要はないにしても、そうした人材も積極的に委員協議会委員に選任していただければありがたいなというふうなことをちょっと考えました。

それから3点目ですけれども、協働活動推進委員は各学校3名ですよ。その方に委嘱して、お願いするかと思えますけれども、ぜひこの3人の方の、月1回定例会を開くというようなことも書かれておりますので、その校内での推進委員の連携はもちろんですけれども、教師間での情報交換、それから年に1回か2回は同じ仙北市内の学校とのその推進委員の連絡会を持つことによって、情報交換をしたり各学校の取り組みが明らかになってくるだろうし、推進委員の役割というのがより明確になってくるのかなと。そうした会を設けるのも一つかなというふうなことをちょっと思った次第です。その役割の一つに、CSディレクターですけれども、今は推進のための説明として活躍していただいていると思えますけれども、やはり軌道に乗るためには、あるべき姿をしっかり持った方が、各学校での熟議とか運営協議会に参加することによって、適切なアドバイスや助言を校長にすることができるのかなと。校長先生も多分迷っているし、不安だと思います。今までの、その先ほどから何回

も言いますが、なんか評議委員会制度や本部事業と何が違うのかっていうあたりで、多分戸惑いがあると思う。そういうときにやっぱりCSディレクターが、事細かに参加することによって、校長先生にアドバイスなり助言をするような、そういった機会も設けていただければ、軌道に乗るまで必要なのかな、学校にとってはありがたいのかなというようなことを感じた次第です。以上です。

田口市長

はい、ありがとうございます。より具体的なお指摘ありがとうございます。

ちょっとここで、三浦社会教育主事の答えられる範囲で結構ですので、まず今までの取り組みと今回のコミュニティ・スクールの違いというものと、あと橋本委員の方からもありましたけど、ヤマメ・サクラマプロジェクトとの連携等について何かお答えできることあればお願いしたいです。

三浦社会教育
主事

今までの取り組みとの違いということでしたけれども、経緯として地域学校協働活動、協働活動というのが今あるわけですが、一つ前に学校支援活動っていうのがありました。その更に前には、前回の総合教育会議で田口委員からお話いただきましたけれども、学社研というものがありました。学校教育、社会教育による合同研究で、その中でふるさと教育というものが進められたという形でした。協働活動の前の支援活動では、学校の子どもたちの学びに地域の方に手伝ってもらって、支援してもらって、地域の中にどんどん入ってもらおうというような取り組みが進められてきたのですが、その中で支援っていうところがあって、お願いしてやってもらおうっていうような関係が強かったです。そうすると、どうしてもくたびれてくるっていうところが実はあって、そういう反省が今あって、地域学校協働活動ということになっています。協働ということなので、例えば手法としては、その熟議の中で、西明寺小学校の例でいうと、く

りっこ探検隊というのがありますが、熟議で共有した地域に残って地域を支える人になってほしいという目標を設定したところで、それに対して、学校と地域で一緒になって何ができるかを考えてのくりっこ探検という活動でした。つまり、くりっこ探検というのは、学校の方でこのようにやるので手伝って下さいという関係ではなくて、地域の声を生かして、一緒になってその活動を作ったという経緯があったということで、その活動の様子を見ると、本当に地域の人自分事としてやってくれていて、例えば子どもたちがフィールドワークに出るのですけども、その際に学校の先生方が受け入れ先に連絡を取って、調整しているというのがあるのですが、それも地域の皆さんが自分たちから連絡作業などをやってくれています。そういうところで、先生方の働き方改革に結果として結びついているところですか、地域の人だから分かる人材に繋がって、それが地域の主体でできるってということもあって、単にお願いしてやってもらうっていう関係というのが、今までの活動と違うところだと思っています。

ヤマメ・サクラマスプロジェクトの関連でいいますと、キャリア教育的なところで、中学校の職場体験ですけれども、昨年度の生保内小学校ですとか、今年度の角館小学校もそうですけれども、協働活動進委員の皆様が学校と企業を繋いでくれる役割を担っていて、すごく活発に動いてくれています。先生方が職場体験を地域の企業にお願いするときには、申し訳ないですが手伝わせてくださいってというような感じで、何でもいいからやらせてくださいっていう形が多いのですけども、特に生保内小学校の推進委員さんは、子どもたちの志教育ということで、協力的に進めてくださっている方ですので、企業の方にこの生保内で働く意味ですとか、良さですとか、そういったところも教えて欲しいということを伝えて下さったみたいですし、ご自分の企業でも受け入れて、そういったところを子どもたちにお話したっていうことを教えてくれました。

ということで、そういった子どもたちのキャリア教育の部分でヤマメ・サクラマスプロジェクトとは密接な関係があると思いますし、スタッフの方とは密接に話をして進めているところです。

田口市長 はい、分かりました。では、細川委員お願いします。

細川委員 例えばなんですけれども、授業の一環として、推進委員の方も授業に参加していただくとかっていうことをやっていけば、子どもの的に自分がちょっといじめられているのではないかっていう心の悩みを、こういうものにちょっと付け足したりして、このクラスではこういうこともあるんだなというのが、何か具体的にわかってくるのではないかなと思いました。

もし、できるようであれば、授業に一つでも取り入れていただければなというのが、私の考えです。以上です。

田口市長 熟議は本当に素晴らしいと思うんですよね。考え方が深まるし、またコミュニケーションという意味でも、非常に我々としても、この前体験してすごいなと思いましたけども、授業にこういったことを取り入れたらというようなご助言がありましたけれども、これについてなにかご意見がありましたらお願いします。

三浦社会教育主事 昨年度3回ほど熟議を行いましたけれども、その中でも、この熟議の場に子どもたちもという意見が各地域でありました。実際今年度、西明寺中学校でまだ計画の段階ですけども、西明寺中学校で子どもたちのグループの中に地域の方々も入って一緒になって地域について語り合ったりとか、そういったことができるのかなと考えていたところです。

田口市長 はい、ありがとうございます。それでは坂本委員お願いします

す。

坂本教育長職務代理者

はい。コミュニティ・スクールがいよいよ始まるということで、楽しみなこと、わくわくすることがたくさんあります。準備や環境がようやく整ってきて、さらに仙北市は観光ですとか、産業ですとか、地域色だとかで取り組みやすい地域な面もあるのではないかなと感じております。ふるさと学習やキャリア教育とも重なる部分もありますので、楽しみな部分が非常に多いと思います。

ただその一方で、学校現場ではひょっとしたら負担になる部分も出てくるのかなという懸念もないわけではありません。学力向上を目指すとか、部活動とか、それに加えて先生方のファシリテーターの養成というようなこともあって、先生方の負担もひょっとしたらあるのかなと。そこをうまく地域でカバーしながら良い方向に持っていくことが理想だなと思いました。

先ほど、三浦社会教育主事からしつけを学校でという話がありまして、これちょっと余談になりますけれども、私自宅で英会話教室をやっております。小・中学生が毎日たくさん来ますが、基本的なことができていない子どもが多くて、まず玄関で靴を揃えなさいから始まるんですね。あと、私の家族がいるので、居たらこんにちはでもハローでもいいので挨拶しなさい、これは私が言わなきゃいけないのかというようなことがあります。なかなか親御さんもそこまで見られないっていうような、実際いろいろなことを抱えていてというのもあるかもしれません。それをですね、地域全体で地域全体の少ない子どもたちですから、育てていくという方向に向かっていくような、そんな活動になればいいなど、理想ですけれどもそう思いました。

田口市長

はい、ありがとうございます。

須田教育長

一つよろしいですか。教育長としてこのコミュニティ・スクール導入に向けて注意しなければいけないと思ったのは、トップダウンで教育長から来年度からコミュニティ・スクールをやると言って実施した地域がいくつかありますが、ことごとく失敗しておりました。それはなぜかという、トップダウンでやったときに、全く学校には浸透しないし、今までの体制とどう違うかということで、全く浸透してない経緯があります。そうはしたくないので、じっくりと取り組みたいということで、西明寺地区は2年かけてやってもらいました。まず驚いたのが、普通、学校経営をするに当たっては、当然、地域の実態をきちんと分析して、それを鑑みて校長の思いを入れて学校経営していくわけですが、今回、西明寺地区の小・中学校においては、1年目の校長の経営に対して様々な意見や要望等もあり熟議をした結果によって、今年度の西明寺小・中学校の経営が、重点目標であったり、中身が変わってきたということでした。つまり、今までそういうような意見で経営が変わることはありませんでした。そこがまず大きな違いかなと思います。

今回、例えば一番最後の教職員の集いを見ていただくと分かりますが、実際、仙北市においても地域課題があります。学校の先生方も、うちの学校の課題はこうだと類型化していき、これを地域と一緒にになって熟議をすることによって、地域課題が見えてくると思いました。その課題を、学校だけではなくて地域とともに解決していくことが、このコミュニティ・スクールの一番良いところだと思います。

そうすると、今まで単にボランティアでやってきた内容も手法も変わってくると。ということで、例えば神代地区でやっている四つのボランティアなんかについても、この熟議を通してやり方であるとか方法であるとか、住民や保護者の関わり方も変わってくるだろうなというふうに期待しているところであります。

ということで、非常にこの2年間の西明寺地区の成果が見え

たので、これを市全体に普及したいというような思いをもって進めたいと考へます。この2年間取り組んできたことによつて、学校の経営を行う、そして地域とともに学校を作っていくことに関しては、素晴らしい手法かなと感じたところであります。

田口市長

はい。そうすれば、コミュニティ・スクール導入について委員の皆様からご意見をいただきましたけれども、何か補足で聞きたいこととか、ご指摘があればお受けしますが、いかがでしょうか。はい、そうすれば大変率直なご意見、また非常に的確なご指摘をいただきました。今日いただきましたご意見を今後また反映させて、改善に繋げていきたいと思ひます。

前段の学校適正配置の推進状況についてのアンケート調査については、委員の皆様から特にアンケート調査の通学面での不安が多いというような指摘に対して、しっかり答えて→応えていくと。また、保護者の皆さんの統合やむなしというふうにならず受けとめて、地域課題として受け取っていただいているということを真摯に、やっぱり我々も受けとめながら丁寧にしっかりと対応していくといったご意見をいただきました。

また、意見交換に関しても、やはりこのグループワークのテーマについてはもう少し分かりやすい形で、グループワークを進めやすいテーマにさせていただきたい。また、周知をしっかりとさせていただきたいと。また、保育園の保護者とかこれから本当にそういった統合等に大きく影響を受ける保護者の皆さんにぜひその意見交換に参加していただくように取り組んでいただきたいというご意見もありました。

また、角館小学校と白岩小学校に関しても、やはり特に白岩小学校は地域からの要望ではありますけれども、やはりその地域の保護者の皆様、地域住民の皆様もやはり不安がどうしてもあるということで、やはりしっかり丁寧に説明をしていくと。教育長の方からもそういった話がありましたので、保護者の皆

さんの声にこれから耳を傾けていくということが重要かと思われまます。

コミュニティ・スクールについては、特にですね、熟議を導入することによって、子どもたちにとっても地元で生まれ育ったプライド醸成など、そういったものに繋がればいいなと私も思いますし、委員の皆様ご指摘の、ヤマメ・サクラマスプロジェクトと連携させながら、地域をこれからどう作っていくのか、そういった意味でのコミュニティ・スクールのあり方というのは非常に重要だと思います。いわゆるチーム、地域ですね。地域の皆さんに何かお願いするのではなくて、地域の皆さんもチームの一員として、主体的に関わっていただくということが今回の目的になると思いますので、皆さんご心配されている、現場での負担をあまりにも過剰にかけてしまうと、先ほど教育長の話のとおり、他の地域ではうまくいってない地域もあるということです。そういったところも生かしながら、このコミュニティ・スクールを仙北市内でもしっかりと浸透させながら、地域みんなが子どもたちを見守って、そして子どもたちを育てていけるような地域作りに繋がっていけばいいなと思います。

私のまとめとしてはこんな形でよろしいでしょうか。それでは、職員の皆さん一言ずついただきたいと思います。最初、福田次長からですね、二つの協議案件、全体でもいいので感想等ありましたらぜひお願いします。

福田教育次長
兼学校教育課
長

はい。学校教育において、少し前までは全て学校の中で完結しなければならぬというようなイメージがあったわけですが、今日参加させていただいて、地域との多様な繋がり、そういう力を生かしながら学ぶ環境、それから、運営していく環境作りというのはますます求められているなということを感じました。

仙北市に限ったことではないんですけれども、このコミュニ

ティ・スクールにしる、それから部活動の地域移行という課題もあるわけですが、やはり地域の理解と協力がなければ進んでいけないということが多くなっております。今まで、学校教育でやっていたことなだけに、それを地域に求めるとすれば、初めのうちは、それは学校でやることと言われることが出てくるかとは思いますが、ただ、この先の将来を考えると、この予測もつかない将来を生き抜く、子どもたちにつけたい力、仙北市は多様性とか柔軟性、それから豊かな学びということを挙げているわけですが、この子どもたちにそのような力をつけていくためには、どうしても地域の方々の力が必要なんだよということを理解していただくよう説明していかなければと感じたところです。

また、学校現場に関しては、学校教育を学校内に閉じずに、先ほど坂本委員からお話がありましたが、学校現場では負担になるのではという不安もあるという話でしたけれども、やはり何事も初めはちょっと大変だなと思うところがあるわけですが、一旦動き始めればいいと感じていることがたくさん出てくると思います。そういう意味で、学校運営協議会、コミュニティ・スクールに関しても、先進地区の事例を学校の先生方にも紹介しながら、学校の教員への浸透も図っていきたいと考えているところです。以上です。

草薨教育部長

はい。学校の適正配置につきましては、アンケートの結果を踏まえた後、地域住民の意見交換会だとか、検討委員会での議論がありまして、具体的な方策とか方向性を模索して、計画の骨子案を年度内にまとめることとしております。先ほど委員の皆様から様々な貴重なご意見をいただきました。保護者等の皆さんが抱えている不安等の解消等を図りながら、様々な案を模索し、調査・検討を進めまして、丁寧さを第一に説明することが非常に大切だなと改めて感じた次第です。

また、適正配置がある程度進んだ場合、中川小の統合の話

にもありましたが、まちづくりと併せて行うことが大切だと考えていますので、庁内での情報共有、連携を図りながら進めることが必要であるというようにも思っております。

コミュニティ・スクールに関しましては、学校の運営とそのために必要な支援について、学校運営協議会で協議していただくこととなります。7月にはいよいよ制度が導入されますので、地域の声を生かした活動の検討だとか、熟議等が活発に行われ、子どもたちや教職員、地域の皆様にとって、学校がより良い環境になることを期待しています。

赤上副市長

今回、非常に面白かったと感じたことが、後ろにA3の資料が2枚ありますが、「地域の子どもたちにどのように育てほしいのか」という質問でしたが、ここで「思いやり」という言葉が、前のページでは6人の方が、次のページでは13人の方が書いていました。ということは、この市において子どもたちは思いやりが少ないのかな、と。これ、大きいのですよ。つまり、ヤマメ・サクラマスプロジェクトで企業側をお願いしているのが、企業にとって我が社はこういう社会貢献をしている、こんなふうに関わっている、ということに胸を張って欲しいということです。それを子どもたちに伝えていただくことによって、その企業に対するプライドが生まれてくるので、こういった企業が仙北市にあるのであれば将来就職したいという話に繋がるかと思っておりますので、私はお願いしているのですが、すなわち企業にとって一番重要なのは、この企業は利他的な企業であるから残れるのだということですね。役に立っているから残れるのだと、いわゆる思いやりを持っているから残れるのだということに繋がっていると思います。ここが、もしこの市の子どもたちに欠けているとすると、非常に難しいなと感じていたところでした。これを醸成するのであれば、やはり社会教育が一番必要かと思いました。ヤマメ・サクラマスプロジェクトの意義が非常に高いな

と感じた次第です。

アンケートにおいても、多様な交流や学力の向上に期待、学力の向上はみんな期待するものかと思えますけれども、多様な交流の点数が高いというのは、やはり多様性・寛容性が求められているのかなど。ということは、裏返してみると、少ないってことなのですね。ですから、いろいろな人と出会う、いろいろな人の話を聞く、熟議をするっていうことが、今までこの地で欠けておったから、こういう結果になっているのかなど。よって、熟議の必要性がますます上がってくるなど思った次第ですので、どんどんコミュニティ・スクールも熟議もたくさん行っていただければ、この市はまだまだ発展するのではないかなという結論に私は至りました。

大澤総務部長

行政運営的な観点にどうしてもなってしまうのですが、学校適正配置の関係で白岩地区から要望があがってきたというのは、教育委員会としても想定内だったのか、想定外だったのか、それを一つお聞きしたいということと、私が他の市民から言われるのは、時間をかけすぎじゃないかという意見をいただくわけです。丁寧に丁寧にというのはもちろんなのですが、仙北市が70人しか生まれない状況の中であって、行政運営的にということになるのでしょうかけれども、統合・適正配置というのは、もう少し時間を急いでもいいのではないかという意見があるものですから、それについての考えをお聞きできればというのが、私の立場で言うのもなんですが、その点の意見をお聞きしたいです。

須田教育長

白岩というのは、実は市内で一番長い伝統のある学校です。白岩地区は3地区もあるぐらいで、非常に地域的に繋がっている地域です。私は令和8年に決まったところで、統合等についてお願いしなければいけない話だと思っていたのですが、それが若い世代、特に園の方から早く統合してほしいと

いう強い要求が小学校の方を動かしました。

大澤総務部長 他地域からも出てくる可能性はないでしょうか。

須田教育長 世代の違いが相当あると思います。教育長さんたちのところにいろいろと勉強しに行ったときも、地域を担ってきた人たちと若い世代では違って、若い世代からは地域と学校との意見交換が終わった後に、私たちだけの会を開いてくれないかという相談もあったと聞き、デリケートな問題と感じています。

ただ、私は教育長として、前教育長から引き継ぎのときに、この学校の適正配置、統合の問題は非常にデリケートな問題で、丁寧な丁寧な合意形成を図っていかないことには、強引に行政サイドの方で進めても絶対うまくいかないと伝えられましたし、いろいろな教育長さんたちのところに行って習ったときも、やっぱり時間はかかると。要するに、行政サイドでどんどん進んでいっても、今回の湯沢市、それから三種町も丁寧に進めていったにも関わらず、多分合意形成が図られてなかったから、否決されたり延期になったっていう経緯もあり、これは丁寧に進める必要があるのかなと感じました。

今回の白岩地区のように、学校や地域から早く進めてほしいという意見があった場合には、令和8年を待たずに、ということも考えられます。

大澤総務部長 よく分かりました。ありがとうございました。

猪本総務課長 学校適正配置のアンケートについて集計がまとまったようでございまして、その中でアンケートの回収率の低さがどうしても気になったところでした。20数年前に人口問題研究所が出している人口推計を初めて見たとき、こんな数字になるのかという、本当に疑問視を持って初めて見たところでした。ですが、この推計よりも早く人口減少が進んでいて、本当に危機感を持

っているところです。ですので、今回の適正配置の議論というのは、もっと前からやるべきだったのかもしれませんが、今、現在進めるということですので、教育長がおっしゃるように丁寧な説明をしながら進めていくことが必要なのかなと考えております。

あと、意見交換会の開催計画が先ほど示されましたけれども、7月1日に広報誌、ホームページ、LINEでお知らせするということでしたが、デジタルであれば紙媒体を待たずにお知らせできると思いますので、総務課にご相談いただければ対応できますので、ご連絡いただければと思います。私からは以上です。

佐々木主事

コミュニティ・スクールについて、県内で仙北市を含めて残り3地区だけだというお話がありましたけれども、それで早急に対応したいというのは分かりますが、先ほど教育長からお話があったように、そのために失敗した例が何件があるということでしたので、既にもうモデル校になっているところは十分に時間をかけて丁寧にやっているところだと思いますが、これからやる学校に関しても、丁寧に対応していただければいいのかなと思いました。以上です。

毛利学校適正
配置準備室参
事

はい。アンケートの自由記述の部分で、今回は白岩の保護者の方々から要望を受けて、統合を進めていきますという形なのですが、中には、白岩の保護者が言ったから教育委員会が動き出したんだねって捉えている方がいました。つまり、我々はただ黙って待っていただけなんでしょ、という方がいて、そういう方が1人いたということは一定数いるんだろうなど。我々としては、行政側、若しくは教育委員会側でも考えていますが、まず皆さんの意見を大事にしたいのです。皆さんは一体どういう考えなのかと、一緒に考えてくださいというスタンスだったんですけれども、このことは、今年度も繰り返し伝えてい

く必要があるなというふうに思いました。

また、アンケートの回収率の低さとか、意見交換会への出席者数の少なさに関しては、私、今年が厄払い事業で、たくさんの人に声をかけて来ていただいているのですが、来ない人は来ないんですよ。何度言っても。でも、来てもらえるきっかけになるのが、直接の対話、直接会って話をするのがきっかけなので、広報しました、LINEで配信しました、はい終わりではなくて、やっぱり保護者の人に会って、どうかちょっとみんなを誘ってきてっていうところも大事にしていかなければいけない部分かなというふうに感じています。以上です。

若松学校適正
配置準備室長

はい。先ほどの白岩からの要望の話題がありましたけれども、本当に今回、白岩から要望をいただいた結果ってというのは、理想的な形になったなというふうに感じてます。実は、去年の意見交換会の際に、市はどうしたいんだという話がありました。私どもが折り返して答えたのが、市はどうしたいかというのは、まず皆さんがどうしたいと思うかをまず聞かせてください。それを実現できるようにしていきたいと思っています、ということで返しました。そうしたところ、そこから地域住民が主体となって、いやどうしようかどうしようかっていうものの、最後の結論がああ要望だったと思っています。ですので、一番大事なのは、まず市民の方に自分ごととして主体的に考えていただくというのが一番大事だと思っていますので、そうした議論が進むように働きかけっていうか、背中を押していければなと思っています。

あと、適正配置を進めるということは、やはり統合というのがまず頭に浮かぶわけですが、そうしますと、地域にとっては子どもたちの距離が遠くなり、そして地域にとっては活気が失われるっていうマイナスのイメージもありますが、今、三浦先生から説明いただいたコミュニティ・スクールに関しては、学校と地域の絆が深くなり、そしてまた、仮に統合が進ん

だとすれば、この地域の枠ってというのが広がるという期待もできると思っております。ですので、これから私ども適正配置を進めていきますけれども、地域の皆様の不安の解消と併せて、コミュニティ・スクールによって期待が大きくなるのだというところを、アピールしながら進めていきたいなと思っております。

三浦社会教育
主事

今回、いろいろ勉強になった会議でした。ありがとうございました。

私自身、元々は教諭なんですけども、一教員なので当たり前なんですけど、学校を経営したことはもちろんありません。なので、コミュニティ・スクールで学校経営のことでいろいろ話を聞いたり、考えたりという機会があって、どのように進めたらいいのかなと分からない部分ももちろんあるんですけども、先ほど坂本委員からも先生方が忙しくなるじゃないかっていう話がありました。でも、このコミュニティ・スクールを導入していくことに関わっていく中で、いろいろ思ったのが地域の方に学校のことを知ってもらえるので、先生方、自分にとって、地域の方が味方になってくれる場面が増えるのかなと思ってますし、実際、先生方がなかなか縁の無い地域に異動したときに、地域の方と繋がりたいけどどこに繋がっていいかわからないっていうときには、やっぱり助けてくれる人が居ることは心強いなと思いましたし、そうなるようにあの仕組みを作っていくところですので、地域が学校の応援団になってもらえればいいなと思います。

もう一つだけ、お願いいたします。先ほど、赤上副市長から市の教職員の集いの熟議に関するお話があったと思うのですが、黄色の付箋のところを見ていただきたいのですが、右端の「ふるさとを愛し」というところに黄色い付箋が集まっております。あと、左のところ「高い志」というところにも黄色の付箋が集まっております。これは、西木地区のものです。

分析の仕方もいろいろあるわけですが、西木地区は、くりっこ探検隊の活動も行っているわけですので、先生方の意見として、ふるさと教育的な活動、志を高める活動をやってみて、これは必要だなと思ったから、そういうふうにしたという可能性もあります。確かに、課題に思う部分もあるかとは思いますが、必要だなと思って書いている可能性もあるということもありまして、ご承知おきいただければと思ってでした。以上です。

武藤生涯学習
課長

はい。私は白岩小学校と角館小学校との統合についてです。これは、地域と事務方で歩調を揃えて、うまくいってくれればいいなと感じたところです。

特別、私は統合の推進派とか反対派とかではないのですが、なんていいますか、こういうものの言葉の重みって本来誰にとっても同じで、好き嫌いなく同じ重みのはずなのですが、大きい声を取り上げられたりしがちなんですけど、それに関しては、一番未来が長い子どもたちを支える方々の要望だと思うんです。だからこそ、変に早めることも、変に遅れることもなく進めてもらえればいいなと思いました。以上です。

門脇北浦教育
文化研究所長

はい。個人的に、今日のこの会議のポイントとなるのだなと感じたところが、コミュニティ・スクールとヤマメ・サクラマスプロジェクトのことでありました。ヤマメ・サクラマスプロジェクトのスタッフを現在抱えている北浦教育文化研究所としては、この二つは似たところ、重なるところがあっても違うものです。そのポイントがすごく大切だと思うのです。

どこかというところ、ヤマメ・サクラマスプロジェクトは、私達、市側の狙いがあるって動くということです。コミュニティ・スクールの場合は、その狙いというものを、自分たちの地区の子どもをどう育てていこうと、ゼロから言ったらいいでしょうか、共有しながらであればこういうふうに事業政策を行っている

ったらいんだなということを地域の方と話し合っていくところですよ。

何を言いたいかというと、ゼロから地域の方と話をしていくっていうのはすごく骨が折れるし、時間がかかるころなんですけれども、そういうふうにすることによって、その後の事業にかけるパワーとか活力が大きく変わってくると思います。それが先ほどから、いろいろな方々が早急に進めても駄目だと、きちっとやっていかなければいけないというように言っていたところなのだと、自分では理解したところですよ。

自分が関わる事業一つ一つ、地道にしっかりと取り組んでいきたいなと思うところですよ。以上ですよ。

湯澤教育総務
課長

はい。私は白岩小学校と角館小学校の統合に向けての話ですけども、昨年度、学校適正配置の方針が示されまして、その方針に掲げてある望ましい学校教育に向けまして、白岩と角館がこれから協議を進めていくわけですけども、今日のアンケート結果にあるように、不安な点、通学等に関する部分、そういったところを十分に配慮しながら、準備委員会や関係者等での協議を丁寧に進めていければなと思いますし、今後の白岩と角館のそういった協議が、市全体の学校適正配置の協議の充実に繋がっていければいいなと思ったところでした。以上ですよ。

田口市長

はい、ありがとうございます。それではその他ですけども何かありますか。特別ございませんか。はい、ないようですので、協議については、これで終了させていただきます。教育委員の皆様には、長時間にわたりましてありがとうございます。素晴らしいご指摘いただきましたので、しっかり受け止めて次のこれからの取り組みに活かしてまいりたいと思っております。

それでは進行を総務部長にお返しします。

大澤総務部長 はい、田口市長ありがとうございました。様々なご意見をいただきました。本当にありがとうございます。それではこれを持ちまして、令和5年度第1回仙北市総合教育会議を終了いたします。

(午後3時50分終了)

上記会議録に相違ないことを認め署名する。

仙北市長

仙北市教育委員会教育長

仙北市教育委員会委員